オブセオルタナティブ

2014 AVEC

松本直樹 吉村正美

http://obusealternative.com

2014 11.11 tue - 11.19 wed

10:00-16:00

おぶせミュージアム・中島千波館 木造館

TOPOS

http://toposnet.com

オブセオルタナティブ 2014 AVEC 松本直樹・吉村正美 2014年 11月11日(火) – 11月19日(水) 於：おぶせミュージアム・中島千波館 木造館 入場無料・会期中無休
開館時間：10:00-4:00 / 2014年 11月16日(日) 14:00~ シンポジウム：「藝術の場所と技法の互恵-02」松本直樹（美術家・批評）松田朕佳（美術家）桐原由枝（石けん作家）ごとうなみ（美術家）吉村正美（版画家）結城愛（美術家）納和也（クリエイター）梅田明雄（梅田版画工房）モリヤコージ（FLATFIE）町田哲也（トポス企画・藝術と思想）・2014年 11月16日(日) 16:00~オープニングケータリングパーティー作家による作品解説：安達浩平氏主催 ロジェ・ア・ターブルによる料理とフラットバー販売提供によるソフトドリンク：会費お一人￥1,000（ドリンク別）
協力：安達浩平（ロジェ・ア・ターブル）・フラットバー・梅田明雄（梅田版画工房）・モリヤコージ（FLATFILE）・トポス / コーディネーター・アートディレクター：納和也（トポス・場映活系）/ 企画：町田哲也（トポス・場映活系・藝術と思想）

おぶせミュージアム・中島千波館 / 長野県上高井郡小布施町大字小布施595 / Tel 026-247-6111 Fax 026-247-6112 / 開館時間：午前10時～午後4時 入場料：一般500円・高校生250円・小中学生無料※20人以上の団体入館は、1割引きになります。※障がい者手帳、療育手帳等をお持ちの方は半額になります。※特別展開催の場合、料金が変わることがあります。/ アクセス：車利用でのアクセス　上信越自動車道：小布施スマートＩＣから５分・上信越自動車道：信州中野ＩＣから10分 / 電車利用でのアクセス　JR長野駅下車　長野電鉄線に乗りかえ、小布施駅下車　徒歩12分。/ 駅前から小布施周遊シャトルバス（1・2月は運休）がご利用できます。

場所の重量は途切れない動きの繰り返しであります。誰かがぱっとそこを通り過ぎてもそんな事が解る訳もありません。二回目という事はとても重要な事であるのと同時にどうでも良い事でもあります。きっと誰かが見ていてくれるはずと祈りながら見渡すと薄い紙のように場所の重量が見えます。場所の重量を怯えながら薄い紙で増してゆくのです。一回目は何も見えません。二回目はどうでしょうか？同じく何も見えない、何も変わらないのかもしれません。見える事は実は虚像であって何にもない場所が変わらないで息を潜めているのでしょうか？それを知覚するには時の過ぎるのが早すぎて判りません。場所の重量を誰かと共有する事はとても困難な事であります。もしかしたらそんな可能性はないのかもしれません。人間が生きてゆくそのままの姿など誰にも見えないのです。ただ人の世で人と場所について私は繰り返して見続けております。等価性のない人間。全てを受け入れて受け入れて受け入れて。

納和也（コーディネイト・アートディレクター）

おぶせミュージアム・中島千波館併設木造館に於いて場所を美術家が探求検証するオブセオルタナティブを、インスタレーションで展開する美儒家 松本直樹（1983~）、銅版画と絵画を併行制作している画家 吉村正美（1973~）両氏によって今年も開催します。場所の解釈を作家たちが試行するトポスプロジェクトとして発想され、美術の社会的互恵性と機能を試行構築継続する企画展となります。

松本直樹は、キッチュでチープなおもちゃや人形など大量生産されたガラクタを素材として、乱暴に散乱させるインスタレーションを反美的に行いながら、オブジェクトの意味や機能を放棄する仕草で破壊し、自らと他者の隙間に等間隔な斥力を発芽させるかの固有な事象として再構築し、批判的に「終焉」への修復のアプローチをみえるカタチにしようとする美術家です。

吉村正美は、絵描きの指先の「切断」という儀礼的な銅版画の手法に馴染んだ銅版画家ですが、2013 年度シェル美術賞受賞などの契機を経て、ダイレクトにカラダの痕跡が定着する絵画制作を再開しており、物質的唯物的な関心と現れの状況への定着を、今回はインスタレーションにて試みることになります。

計画者 / 町田哲也（トポス統括・藝術と思想）

授業中など、手持ちぶさたにまかせ、シャーペンやボールペンを分解／解体したり、あるいは幼少のころ、昆虫の脚をもいでみたりと、誰しも、こうした経験があるとおもいます。
きっと元来そのモノに備わっている性質を見定めたい、そうしたムズムズとわきあがる欲求が、無自覚で無慈悲なおこないへと私たちを駆立てるのでしょう。

なにかの性質を見定めようとしたとき、私たちは、それを限界まで酷使しなければなりません（たとえば分解／解体してしまうほどに）。
それは、なにもモノだけに限らず、たとえば好きな子をわざと怒らせたり、泣かせたりするのも同じ欲求の表れだといえるでしょう。好きだからこそ、怒らせ、泣かせるのです（あるいは、あなたは、いじわるをいうと叩かれ、贈り物をすると涙を見せられるのかもしれません）。

陶器は落とすとわれてしまいます。絵の具はベトベトと粘りついてしまう。押し付ければへこみ、他方ではでっぱる。もしかすると、欠けたり、はみだしたりするのかもしれません。
「無理が通れば道理が引っ込む」とは良くいったもので（無理が通る――つまりカナヅチで叩いてもわれない陶器は、このときすでに陶器ではない容器で、物質ではない絵の具は、光か色と呼ばれるものとなるのです）、この「道理」ということばも、春になれば芽吹き、秋になれば葉は落ちるのと同じように、変えることのできない、こうした欲求と、モノの「質」（の差）にこそ向けられるべきでしょう。

松本直樹

松本直樹 Naoki Matsumoto

1982 年 長野県生まれ
2007 年　東京芸術大学 第七研究室 修士課程 卒業
2004-2007 年　近畿大学 国際人科学研究所 東京コミュニティ・カレッジ　四谷アート・ステュディウム 研究員

個展
2003「こわれるのも みてたいの。」| 毎日アートギャラリー（お茶の水）
2005「＋－０（プラスマイナスゼロ）」| GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE（四谷）
2007「第二十計 混水摸魚」| GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE（四谷）
2014　トポス高地 2014_07 | Haricot Rouge（飯綱町）

グループ展
2001「森岳 ARTContemporaneous2001」| 長崎
2004「松に衣 梅かおり 一葉ちりぬる 城の西。」| 文房堂ギャラリー（お茶の水）
2004「MEANS AND ENDS」| GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE（四谷）
2005「五月展」| ギャラリー覚（銀座）
2005「ハチミツとハニカムボード」| GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE（四谷）
2006「Scrapple From the Apple」| GALLERY OBJECTIVE CORRELATIVE（四谷）
2013「鬱間主観 TOPOS Depression Intersubjective Installation Meeting 2013」| FLATFILE,Gallery 花蔵，花井宅倉庫，グレイスフル芸術館（長野市・小布施）
2014「まつしろ現代美術フェスティバル」（長野市松代地区）| 企画・出品
2014　マツシロオルタナティブ 2014_AVEC シンポジウム 進行
2014　オブセオルタナティブ 2014_AVEC（おぶせミュージアム・中島千波館 木造館）

アメリカの心理学者アブラハム・マズローによって提唱されたマズローの欲求段階説によると、人間の持つ内面的欲求は５段階の階層に分かれており、低次の欲求が満たされると順々により高次の欲求を求めるようになる。仮説であるが人間のモチベーション理論の一つとされている。その最高次の段階に、潜在的な自分の可能性の探求や自己啓発、創造性へのチャレンジなどの自己実現の欲求が位置している。人間は生存の欲求が満たされ、内的欲求をより外的に求めるようになるのだが、人間の飽くなき欲求が故に歴史上繰り返されて来た事がある。その欲求が、冒険者から開拓者、そこから侵略者となり最終的にはジェノサイドへと向かってしまう。困難はつきまとうが冒険、開拓は希望に満ちあふれて明るいものだろう、次の侵略へと向かってしまう前に我々はこの流れを止めるにはどうあるべきかを気付かなければならない。

ここ小布施ではまだ目に見える形でこの流れを感じる事は出来ないが、目に見えない形で現象として実はあるのではないだろうか。この開拓から侵略への流れは着々と進行していて、実際は非常に危機的状況にあるのではないか？自分達には見えないという事はただこの三次元空間に存在していないだけであって、認知外の高次元空間には存在している可能性はないわけではない。
今回の展示ではその仮説（高次の冒険者はすぐそこにいる）の具現化を試みる。認知できない高次元の情報を、認知できる三次元空間に落とし込んだ形状であり、その構造は最もシンプルに網目状の立方体で表現されている。しかし未知なるものに対しては想像の域をでないので、そこには常にサプライズがつきまとう。

吉村正美

吉村正美 Masami yoshimura　masamiyoshimura.com

1974 年 長野県長野市生まれ、現在世田谷区在住
多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了

個展
2000　[SLIDE Point] 展（ギャラリービーワン・中央区京橋）/ [STYLE] 展（アートスペース羅針盤・中央区京橋）
2001　[sonic spider] 展 (T-BOX・銀座）
2008　GALLERY Qio・Los Angeles / T-BOX・東京八重洲
2009　T-BOX・東京八重洲 / ギャラリー６坪・新潟
2010　[colors] 展（ギャラリー悠玄・銀座)
2011　VERANDA・西麻布
2012　[co-star] 展（ギャラリー誠文堂・相模原）
2013　TOPOS 高地 2013_01 アリコ・ルージュ（長野）
2014　TOPOS 高地 2014_01 アリコ・ルージュ（長野）

グループ展
1996　版画協会展
1997　版画協会展・大学版画展（買上賞）
1998　神戸版画ビエンナーレ
1999　フィレンツェ賞展・JOAA 展・JACA’99 日本ビジュアルアート展
2002　[TEst] 展（アートスペース羅針盤・中央区京橋）
2007　12th International Bienneir of Small Grafic Forms and Ex-Liblis (Poland) / MINIPRINT FINLAND (Finland)
2008　28th MINIPRINT INTERNATIONAL OF CADAQUES (Spain) / 7th LESSEDRA WORLD ART PRINT ANNUAL MINIPRINT (Bulugalia)
3rd international Mini Print Graphium,Timisoara (Romania)
2009　EARTHWORKS 02 (SHOJIN restaurant・Los Angeles) / EARTHWORKS 03 (SHOJIN restaurant・Los Angeles)
・29th MINIPRINT INTERNATIONAL OF CADAQUES (Spain)
2010　信州版画展（輝ける小版画賞）
2011　[black＆light] 展（カフェ春や・軽井沢)・トポス（FLAT FILE・ギャラリー花蔵 / 長野)
2012　ギャラリー悠玄新春グループ展（ギャラリー悠玄・銀座）
・トポス高地回遊（飯綱高原・長野）・２人展 (ART PROJECT SANIWA・軽井沢）
2013　Lithograph-Black&White 4-Artist 2013 (ART PROJECT SANIWA・軽井沢）
・アワガミ国際ミニプリント展・版画協会展・シェル美術賞 2013（保坂健二朗審査員賞）
2014　オブセオルタナティブ 2014_AVEC（おぶせミュージアム・中島千波館 木造館)